

整備した古代伊勢道を西から見たところ（完成予想図）



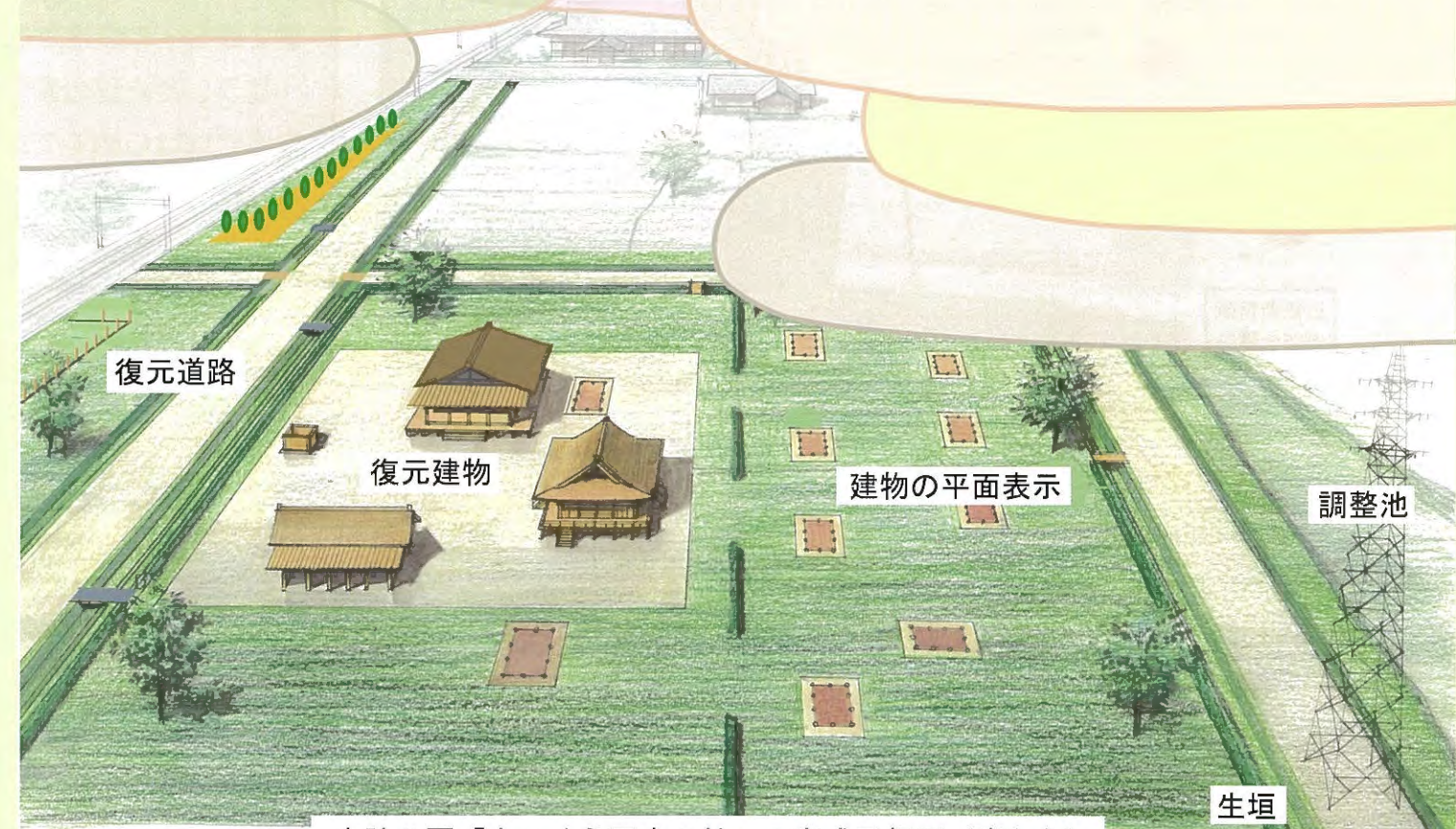
古代伊勢道地区の整備

平成 27 年度には、史跡東部の「さいくう平安の杜」とともに、古代伊勢道地区の整備も行います。これは、齋宮歴史博物館と歴史ロマン広場を結ぶ史跡の回遊路として、飛鳥～奈良時代には成立した古代の官道「伊勢道」を、発掘調査で確認された幅約 8.9m の規格と位置そのままに、延長約 350m を舗装整備するものです。



平安時代の齋宮へのいざない

史跡公園「さいくう平安の杜（もり）」と復元建物



史跡公園「さいくう平安の杜」の完成予想図（東から）



齋宮歴史博物館

平成 27 年秋の完成をめざして、史跡齋宮跡柳原地区では、史跡公園「さいくう平安の杜」の整備を進めています。ここでは、9 世紀に齋宮寮の長官が、大勢の役人を前に重要な儀式を行ったり、都や神宮の使いをもてなした「寮庁」の中心的な建物、正殿、西脇殿、東脇殿の 3 つの建物と、この一面を囲む幅約 15m の広大な区画道路を、発掘調査で見つかった場所そのままに、実物大で復元しています。



「さいくわん平安の杜」は、史跡齋宮跡東部に、平安時代の齋宮を体感できるよう建物や区画道路を再現した史跡公園で、約 27,000 m² (国会議事堂 2 棟分) の広さがあります。こうした史跡公園整備は三重県でははじめてであり、平安時代の建物の復元は、全国でも例の少ない貴重な機会となっています。



復元する正殿の発掘調査のようす
この時見つかった柱の位置・間隔・大きさのまま、建物を復元します。復元建物の基礎も地下の遺構を壊さない、ベタ基礎としています。

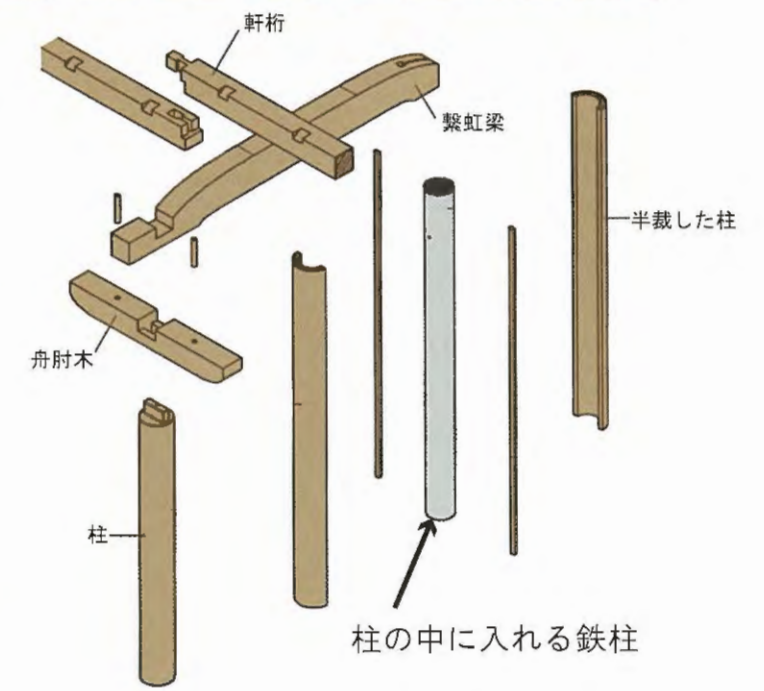


復元建物 3 棟を南西からみたところ

- 【正 殿】 平安時代に柳原区画に置かれた齋宮寮庁の、中心的な建物です。
檜皮葺きで入母屋造りの屋根、高さ約 1.5m の高床で、南の広場に向かって建てられています。齋宮寮長官が儀式などを行う所で、「内院」にある齋王の御殿に次ぐ、齋宮のシンボルともいえる建物です。
- 【西脇殿】 齋宮跡のこれまでの発掘調査で見つかった中では最大級の床面積を持つ建物です。広場に向かった東側が正面になり、檜皮葺きの屋根と板葺きの庇がある高床の建物です。広さを活かして儀式や饗応に活用された建物と考えられています。
- 【東脇殿】 南北方向に長い建物で、発掘調査から建物は小さいながらも柱が大きい事が分かったため、床を張らず、南北方向には壁が無い建物であったとみられます。儀式などにあって役人たちがここに並んで待機していたと考えられます。



ヤリガンナによる木材の仕上げ
ヤリガンナは、日本独自の大工道具で、現在使われている台鉋が普及する江戸時代まで一般に使われていました。



復元建物の建築にあたっては、3 棟とも、わが国でも数少ない専門の屋根職人たちにより、本物の檜皮で屋根を葺き、釘を使わない木材と木材の継ぎ手や、樹齢 100 年を超える杉の原木からの木取りを行っています。そして正殿では、木材の表面を古代の大工道具であるヤリガンナにより仕上げしており、姿だけでなく手触りまで平安時代の建築を再現しています。木材も、約 7 割に三重県産材を使用しています。

また一方で、みなさんが安心して建物をご見学・ご利用いただけるよう、建物を支える柱や梁には鉄柱や鉄骨を入れ、大地震でも倒れないような建物になっています。